

## 2024年11月度(第152回)STF交流会 報告書

1. 日時:11月16日(土)14:00~16:45
2. 会場:品川区立総合区民会館(きゅりあん)5階 第3講習室(JR大井町駅東口前)
3. 参加者:10名
4. 話題提供:

### (1)テーマ:「空飛ぶクルマ第2弾」 佐藤 敏夫

①未来投資戦略 2018、②空飛ぶクルマとは、③航空機の分類と定義、④ドローン(マルチコプタ)が急成長した理由、⑤空飛ぶクルマ(化石燃料)、⑥EXPO2025(大阪万博)飛行する予定の機種(予想)、⑦空の移動革命に向けたロードマップ、⑧空飛ぶクルマに関わるビジネスモデルのイメージ、⑨空飛ぶクルマビジネス発展へのロードマップ、⑩JALが実施したオペレーション体制・事業モデル(試算)、⑪UAM Corrido by FAA、⑫Vポート Vertiport、⑬世界で開発が進む空飛ぶクルマの機体タイプ、⑭Lilium Jet リリウムジェット(独)、についてはなされた。

2035年には、運航エリアは広範囲でネットワーク化された商用運航、運航形態は人が関与しない自立運航で、高密度運航が可能になるうとの事。ウイングにたくさんダクトをつけた搭乗者7人のリリウムジェット(独)に期待ありと。

### (2)テーマ:「介護保険制度の利用」 佐藤 敏夫

自験例も含めて、紹介があった。

### (3)テーマ:「「化学工場制御システム半世紀の変遷、そして地球環境への響き♪」Catwalk service」 山本 裕

①何故化学工場か?②流体の制御から、③単なる機械制御から空気式へ、④空気式計装システム半世紀、⑤大型コンピュータの登場、⑥電子式計器の時代へ、⑦DCS(Distribution Control System)の時代へ、⑧そして現代へ、⑨プロセス制御システム産業システム技術の周辺への響き、⑩世界主要計装制御機器メーカーの変遷、⑪キャットウオークとは、⑫画像医療のIT化進展の課題、について話された。

「単なる機械制御から空気式へ」の項では、空気式計器の発達は精密さを要求される時計工業から自動制御への展開、伝送理論と機器の発展があった。差圧式計器の登場では、5000人かかった仕事が500人でできる飛躍的発展があったと。

### 【所感】

空飛ぶクルマに2035年になったら、誰でも乗れるのでしょうか?

化学工場の流体の制御では、空気圧の制御で、飛躍的発展があったと。身近な電車のドアの開閉し、歯医者さんのドリルも、ロボットの関節もみな空気圧の調整制御で動いていますね。

### 【文責 後藤幸子】